

<消化管内視鏡手術>

内視鏡手術とは、粘膜内に留まる早期がんを内視鏡を使って内側から切除するものです。このため、外科的手術のように消化管そのものを切り取ってしまう必要がなく、入院期間や社会生活復帰までの期間が短くすむことが、大きなメリットです。



● ESD : 内視鏡的粘膜下層剥離術

電気メスを使って、胃の表面を切り剥がしていく新しい治療方法です。右記の EMR より、広い範囲の切除が可能です。

● EMR : 内視鏡的粘膜切除術

がん組織の根元にスネアと呼ばれる金属の輪っかを引っ掛け、高周波電流により焼き切る方法です。

※食道 ESD は、食道の蠕動運動を抑えるため全身麻酔下にて、オペレーションセンターで行います。その他は内視鏡センターで行います。

● 胃がん ESD の流れ



<NBI (狭帯域光観察 : Narrow Band Imaging) >

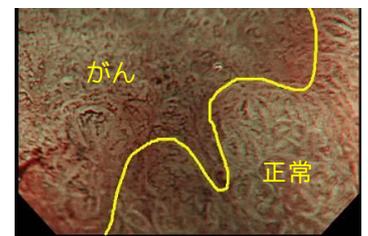
NBI とは、内視鏡検査の際に、粘膜組織や血中のヘモグロビンの光学特性に最適化したスペクトル幅の狭い光 (狭帯域光) を使うことにより、診断に関連する画像特徴のコントラストを向上させ、高い描写能力で表示するものです。結果として、がんや前がん病変としての腺腫は赤茶色に、多くのその他の病変や背景粘膜は緑色になります。

ESD や EMR の際、切除する病変部を確定するために NBI の拡大観察を用いています。

- 人間ドック、健診、大腸がん検診の下部消化管検査は、全例 NBI で行っています。
- 上部消化管検査の NBI は、食道がんのリスクが高い方の精査に有効です。
- 当院の NBI の拡大観察では、85 倍 (上部)・70 倍 (下部) までの拡大観察が可能です。内視鏡手術時や、病変部の境界確定に不可欠です。
- 2013 年、上部消化管汎用ビデオスコープ GIF-HQ290、高輝度光源装置とビデオシステムセンター (オリンパス製) を導入しました。北陸では初となる最新型内視鏡システムです。



NBI 近接像



NBI 拡大観察像



通常光 近接像